

セブン&アイグループの脱炭素社会 実現に向けた取り組み



GREEN
CHALLENGE
2050 私たちの挑戦で、
未来を変えよう。

2021年11月11日(木)
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
経営推進本部サステナビリティ推進部
オフィサー 江上 貴司

セブン&アイグループ概要



株式会社セブン&アイ・ホールディングス (数値は2021年2月末現在)

・グループ売上	11兆448億円※
・営業利益	3,663億円
・国内店舗数	約22,600店舗
・国内来客数	1日約2,240万人

※「グループ売上」はSEJ及びSEO、7-Eleven, Inc.の加盟店売上を含めた数値

国内・海外 CVS事業

- セブン-イレブン・ジャパン
- 7-Eleven, Inc.



スーパーストア事業

- イトヨーカ堂
- ヨークベニマル
- ヨーク
- シェルガーデン



百貨店事業

- そごう・西武



金融関連事業

- セブン銀行
- セブン・フィナンシャルサービス
- セブン・カードサービス



専門店事業

- 赤ちゃん本舗
- ロフト
- セブン&アイ・フードシステムズ



環境宣言4つのテーマ 喫緊の課題は「CO2排出量削減」



● グループの店舗運営に伴う排出量



- 自社の排出量（スコープ 1+2）のみならず、スコープ3を含めた**サプライチェーン全体**で削減を目指す。



チームリーダー
石川 孝
セブンイレブンジャパン
執行役員
建築設備本部長

CO₂排出量削減
対策チーム



リサイクルペットフィルムを使用した
「セブンプレミアム」。

ペットボトル自動回収機。



チームリーダー
高橋 広隆
セブンイレブンジャパン
取締役執行役員
CSR統括管理本部長

プラスチック
対策チーム

環境宣言「GREEN CHALLENGE 2050」を 4つの環境イノベーションチームで推進



チームリーダー
石橋 誠一郎
セブン&アイHLDGS.
常務執行役員
グループ商品戦略本部長

食品ロス・
食品リサイクル
対策チーム



チームリーダー
荒谷 徳
イトーヨーカ堂
取締役執行役員
食品事業本部長

サステナブル
調達(持続可能な調達)
推進チーム



セブン&アイグループのCO2排出構成

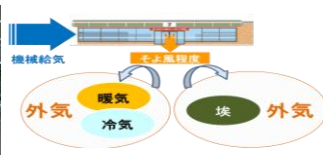
2019年度店舗運営に伴うCO2排出量(約216万 t)の構成(12社合計)

エネルギー区分	エネルギー使用量	排出係数を 乗じて換算	CO2排出量	構成比
電気	44億8,700万 k Wh	×CO2排出係数	206万t-co2	95.2%
液体燃料 (A重油・軽油・灯油)	●●万ℓ	×CO2排出係数	1万9,000t-co2	0.9%
ガス (都市ガス・LPG)	●●万m ³	×CO2排出係数	7万3,000t-co2	3.4%
熱供給	●●万MJ	×CO2排出係数	1万2,000t-co2	0.6%

CO2排出量削減に向けた3つの柱

省エネ施策

●省エネ設備の導入



- ・LED照明
- ・店内正圧化
- ・ペアガラス

●稼働管理・EMSの導入



- ・温度異常監視 AIによるEMS

●各店舗での省エネの取り組み



- ・センサー設置による電気の見える化

創エネ施策※オンサイト(敷地内)

●太陽光パネル 設置拡大



- ・自産自消

●設置場所・発電容量・蓄電池の拡大



- ・ソーラーカーポート
- ・蓄電池設置

・8,719店(0.9億kwh)設置済
→11,000店(3億kwh)設置拡大へ

- ・次世代太陽電池、蓄電池の研究開発

●店舗での水素エネルギーの利活用

再エネ調達施策※オフサイト(敷地外)

●グループ専用 発電所の拡大



太陽光発電所



風力発電所



水力発電所

- ・オフサイトPPAモデルの拡大
- ・VPPによる電力のグループ相互融通

店舗の電気使用量削減(省エネと創エネ)と長期安定した再エネ電力調達

【省エネ施策】人と環境にやさしい店舗づくり

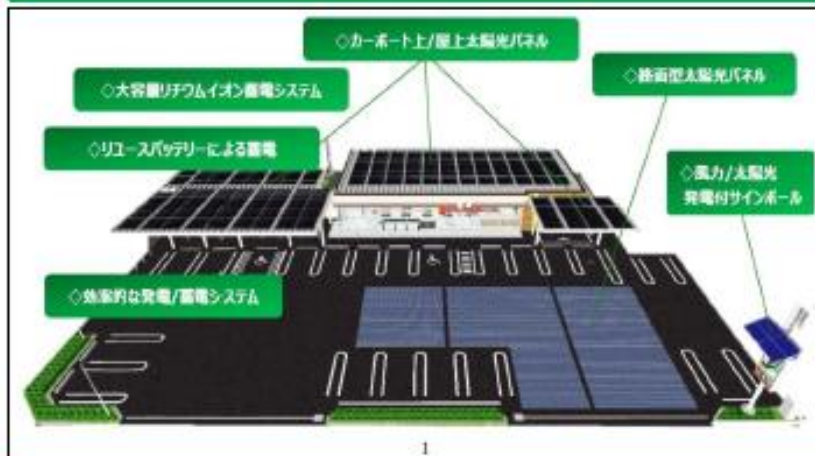
主なプロジェクト

2017年12月 千代田二番町



電気使用量**28%**削減目標
・純水素燃料電池の発電利用
・CO₂冷媒を使用した冷蔵設備

2018年5月 相模原橋本台1丁目



再生可能エネルギー比率**46%**目標
・大容量リチウム蓄電システム
・路面型太陽光パネル

2019年9月 神奈川プロジェクト



再生可能エネルギー**100%**の電力調達
・高性能太陽光パネル
・リユースバッテリーを活用した蓄電池

【省エネ施策】 省エネ店舗への挑戦

店舗概要

- ① セブンーイレブン青梅新町店 2020年11月25日開店
- ② セブンーイレブン大和下鶴間店 2021年 2月25日開店

室外機ドレン水活用



大容量太陽光パネル

店内正圧化

内蔵ケース新冷媒ガス (アイス・栄養ドリンク・低温)

複層ガラス

調光機能付き店頭看板

採用技術20以上

電気使用量 (13年度対比)	CO ₂ 排出量 (13年度対比)
▲43.0%	▲54%

太陽光パネルの出力 当初5kW⇒標準10kW、更に35kWへ増大 余剰電力の蓄電が課題

【創エネ施策】 国内太陽光パネルの設置の拡大

店舗へ供給する総年間発電量 8719 店舗 $9,381$ 万kWh $\rightarrow$ 2030年 $11,000$ 店舗 3億kWh



セブン-イレブン・ジャパン

21年8月末店舗数	8,682店舗
年間発電量	8541万kWh
30年までの計画	10706店舗



イトーヨーカドー

21年8月末店舗数	13店舗
年間発電量	382万kWh
30年までの計画	50店舗



ヨークベニマル

21年8月末店舗数	7店舗
年間発電量	298万kWh
30年までの計画	100店舗



ヨーク

21年8月末店舗数	4店舗
年間発電量	70万kWh
30年までの計画	40店舗



そごう・西武

20年度末店舗数	2店舗
年間発電量	1.2万kWh
30年までの計画	4店舗



セブン&アイ・フードシステムズ

20年度末店舗数	4店舗
年間発電量	2.7万kWh
30年までの計画	100店舗



オフサイト発電所

設置場所	千葉市
総発電出力	0.8MW
年間発電量	86万kWh

今後の達成ポイント

- ・ 太陽光設備の高効率化
- ・ 既存店舗の追加設置
- ・ 大型店への新規設置
- ・ 次世代太陽光設備導入
- ・ 次世代蓄電池導入

【再エネ調達施策】 国内オフサイト(敷地外)の取り組み

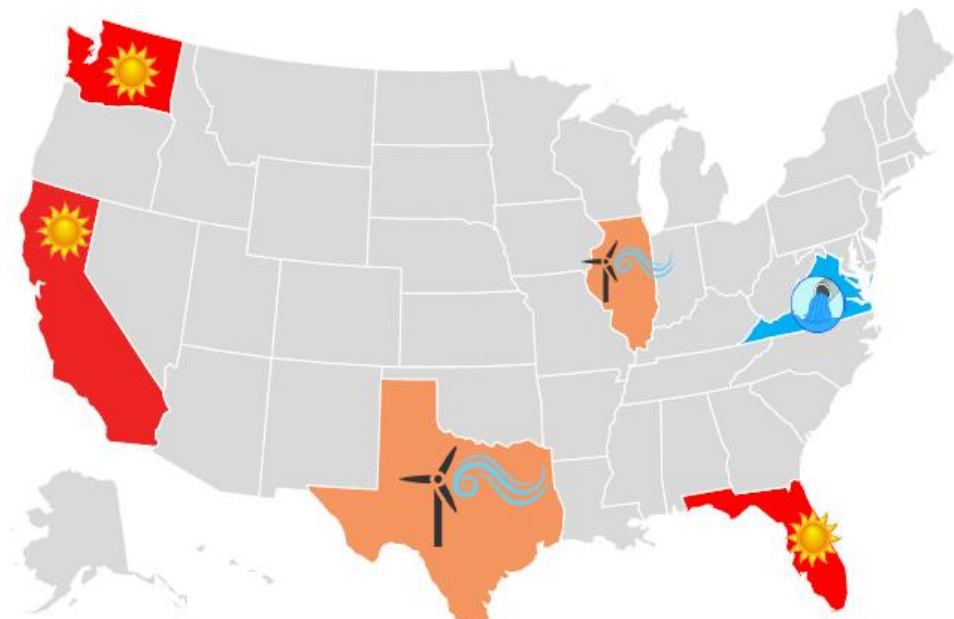


契約	オフサイトPPA契約	イトーヨーカドー 専用発電所(2.3MW)	2022年 1月～(20年契約)
供給者	NTTアノードエナジー	セブン-イレブン専用発電所(0.8MW)	2021年 6月～(20年契約)

国内の再エネ発電量拡大に寄与 環境面に配慮、新再エネ発電所を今後も拡大させる

【再エネ調達施策】北米のセブン-イレブン 非化石電源への切り替え

再生可能エネルギー使用エリア



再生可能エネルギー使用店舗数

	太陽光発電	約350店
	風力発電	約870店
	水力発電	約150店
再生可能エネルギー使用店舗		約1,370店

*2020年12月末現在

2030年に向けた展開

他地域での再生可能エネルギー使用

RE100店舗を5,000店舗に拡大

脱炭素社会実現に向けたスコープの拡大

「脱炭素社会」実現に向け、セブン&アイグループ・お取引先様と共に取り組む スコープ拡大のステップイメージ：RE100参画⇒SBT認定⇒サプライチェーンの脱炭素化

2021年9月～2022年1月



サプライチェーン全体の脱炭素化支援事業

2020年10月～2021年1月



SBT認定支援事業

SBT

(Scope1・2・3)



2021年3月コミットメントレター送付

2020年1月～



日本リーダーズ・パートナーシップ

参画支援

RE100

(Scope 2)

RE100

CLIMATE GROUP



2020年12月参画～

サプライチェーン上のお取引先様と
共有の目標を設定 脱炭素化を推進

「パリ協定」水準のCO2排出量削減目標
である認定を受ける 23年認定を目指す

グループの事業活動で使用する電力
100%再生可能エネルギーを目指す

パリ協定
水準の
CO2削減

再生可能
エネルギー
100%

持続可能な社会（脱炭素社会）

環境目標
「GREEN CHALLENGE 2050」



GREEN
CHALLENGE
2050 私たちの挑戦で、
未来を変えよう。

- ・グループの**店舗運営に伴うCO2排出量**
2013年比 50%削減(2030年) 実質ゼロ(2050年)
- ・自社の排出量（スコープ1+2）のみならず、スコープ3を
含めた**サプライチェーン全体で削減を目指す。**